

氏名	池田 弘
学位の種類	医学博士
学位授与番号	博甲第 770 号
学位授与の日付	平成元年 3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学(一)専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	Changes in serum levels of hepatitis B virus markers after interferon treatment(インターフェロン療法時の血中B型肝炎ウイルスマーカーの変化)
論文審査委員	教授 木村郁郎      教授 太田善介      教授 新居志郎

### 学位論文内容の要旨

インターフェロン (IFN) 治療をおこなった慢性B型肝炎患者の予後を推測する目的で、IFN 治療をおこない1年間経過観察できたHBe抗原、DNA-ポリメラーゼ (DNA-P) 陽性慢性B型肝炎患者23例について、HBV-DNAのpre-S領域でコードされたpre-S抗原 [pre-S(1)抗原, pre-S(2)抗原, ポリマー化アルブミンレセプター (pAR) 活性] とpAR抗体をenzyme-linked immunosorbent assay (ELISA) 法で測定し、あわせてHBs抗原・抗体, HBe抗原・抗体, DNA-Pを測定検討した。

その結果、IFN治療で、治療中pre-S抗原が急速に低下し、その後陰性化した症例ではHBe抗原、DNA-Pも持続的に陰性化して血清トランスアミナーゼ (S-GPT) 値も正常化し1年後のS-GPT値も正常のままであったが、治療中pre-S抗原の低下の程度が悪く陽性のままであると、いったんHBe抗原やDNA-Pが陰性化してS-GPT値が正常化しても、HBe抗原、DNA-Pが再度陽性化しS-GPTの急性増悪をおこし、1年後もS-GPT値異常が持続することがわかった。しかし、HBs抗原は治療効果にかかわらず陽性のままであった。さらに、1年後S-GPT値が正常化した症例4例中3例 (75.0%) に、pAR抗体が検出された。

B型肝炎に対するIFN治療において、pre-S抗原測定は、HBs抗原、HBe抗原、DNA-Pよりも治療効果や予後の推測に有用であることが示唆された。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

## 論文審査の結果の要旨

本研究はインターフェロン治療を行った慢性B型肝炎患者の予後を推測するためHBV-DNAのpre-S領域でコードされたpre-S抗原を測定検討したものであるが、従来十分に確立されていなかったpre-S抗原の動向について治療中急速に低下し陰性化した例ではHBs抗原, HBe抗原, DNAポリメラーゼも持続的に陰性化し、より治療効果や予後の推測に有用であることを認め、重要な知見として価値ある業績であると認める。

よって本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。